

中部学院大学短期大学の特色

中部学院大学短期大学部では、「神を畏れることは知識のはじめである」（旧約聖書「箴言」1章7節より）を建学の精神とする、キリスト教主義の教育を実践している。「神を畏れる」とは愛と義と公平を求める神の意志を尊重することであり、そこよりはじまる「知識」は、技術的知性だけではなく、それを真に生かす叡知的理性をさしている。またそれは、隣人愛に生きることを促し、正義・自由・平和を祈り求める「知識」のこともある。

中部学院大学短期大学部は、中部学院大学との、同一キャンパスの利点を活かした単位互換制度、また近隣大学との、国際ネットワーク大学コンソーシアムによる単位互換制度を実施している。加えて、資格の単位認定制度、高大間の単位認定制度等、多様な学習ニーズに対応すべく教育制度の拡充も図っている。幼児教育学科から専攻科（福祉専攻）への進学、各学科から中部学院大学をはじめとする4年制大学への編入等進学の機会も保証している。付置機関の生涯学習センターでの資格取得支援、キャリア支援センターによる就職支援、また、ゼミ担当教員による個別支援等により学生のキャリア形成を幅広く支援するとともに、高い就職率を維持している。

中部学院大学短期大学部は岐阜県関市にキャンパスを構え、長期にわたり地域との密接な連携の積み重ねにより相互の活性化をめざしてきた。平成18年度からは、岐阜県各務原市に新キャンパスを構え、短期大学部経営情報学科（旧経営学科）を移転、人間福祉学部こども福祉学科を新設しツインキャンパスとなった。各務原キャンパスにはシティカレッジを併設し、これまで培ってきた関市での実績をもとに、初等教育から生涯学習まで、広く地域に貢献することを目指している。学生の多くを近隣地域から受け入れ、社会人として同地域に輩出する本学では、地域で活躍する人材の育成も、その重要な一つの役割といえる。